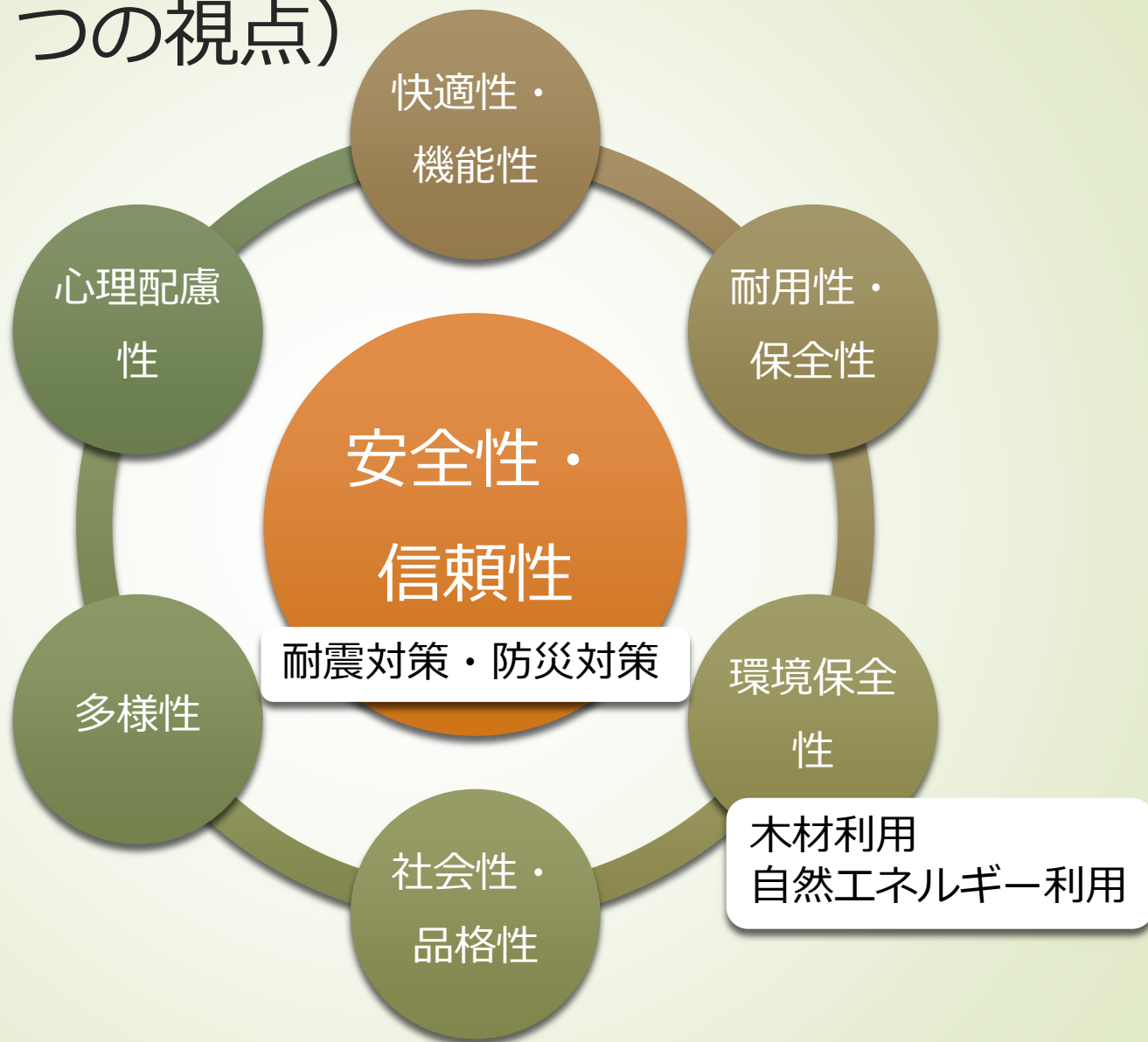


品質評価手法研究部会 活動紹介

JFMAフォーラム2016

品質評価軸 (7つの視点)





2016年の活動計画

- ➡ サステナビリティ（環境・防災）に関する情報収集
- ➡ これまでの2年間で集めてきた情報について整理
- ➡ 報告書にまとめる
- ➡ 自治体庁舎の品質に関する検討の継続



緊急時対応訓練に参加して

リスクマネジメント研究部会との合同訓練

訓練を体験した部会員の感想

1. 今回は大阪本社役も同じ部屋の中において訓練の様子が見えていたが、全く見えていないとどうなるか。どうやったらうまく情報伝達ができるのかを考えさせられる訓練だった
2. 最初は机を寄せ集めて作った大きなテーブルを2人1組になったグループが分け合って使っていたが、途中でテーブルを分けて使うようにした。テーブルを分けたことによって情報がうまく流れるようになった
3. 慣れた人がコントロールしなければ、訓練自体がうまくいかなかったのではないかと
4. 備品をいつ誰が使ったかわかるような仕組みや機能が必要だということがわかった
5. 20名程度が参加し、JFMAのA/B両方の会議室をつなげて実施したが、ちょうどよい広さだった。20名程度の災害対策本部にはこの程度の広さの部屋が必要だということが
6. メディアからの情報を受けて、勤務地の地理を理解しておく必要があるとわかった
7. 訓練のために条件付与カードを作成することは、リスクを理解して分析することである。自分の会社や組織に合わせて作るとはリスクマネジメントにつながる
8. 今回はメディア役にも現場の様子が見えたので、ニュース原稿を読むときに現場の状況に気を使ってしまった。実際には、メディアの情報は、現場の状況にかかわらず、直接関係のない情報も含めて一方的に流れてくるものであり、種々の情報の中から必要なものを聴きとらなければならない
9. 集まってくる情報の整理は非常に難しいため、どこに、どんな情報を記入すればよいか、予め決められたフォーマットがあると整理しやすい。
10. 対応した情報については、それが対応完了しているのか処理中なのか、その情報がいつのものなのかが時系列で共有できるようなものがあると、整理しやすい。
11. 身近な情報や被害の情報は、入ってきやすいし対応しやすいが、一見関係なさそうなものに重要な情報（或いは放っておくと重大化する情報）が含まれている可能性があり、未処理の情報を違う人の目で見ること必要かと思う。

部会メンバー

- 塩川完也：NTT都市開発株式会社 取締役関西支店長
- 恒川和久：名古屋大学大学院工学研究科 准教授
- 赤松光哉：富士通株式会社 川崎工場 総務部 マネージャー
- 上田雅則：株式会社朝日ビルディング関西支社 大阪中之島支店 支店長
- 坂本泰紀：株式会社電通ワークス 地域事業統括部長
- 菅野文恵：株式会社ゼロイン
- 高須小百合：山法師文庫 電気設備技術者
- 中村伸一 東北電力株式会社
- 吉田慎也：株式会社セノン
- 渡邊誠：市原市役所 総務部総務課 主幹
- 渡邊良成：株式会社エー・ビー・シー興産 警備部防災センター副隊長
- 足立寿通 大津市総務部公共施設マネジメント推進部
- 八條宏保 西宮市土木局営繕部施設耐震推進課
- 野瀬かおり：公益財団法人 大原記念労働科学研究所 協力研究員
- 成田一郎（JFMA常務理事 兼 事務局長）
- 梅澤靖幸（事務局）